

大森東地区管内人口		
人口	男	10,148人
	女	9,177人
	計	19,325人
世帯数	10,526世帯	
(令和5年3月1日現在)		

**手をつなぐ5自治会**

- 大森東自治会 (平林 敏夫 会長)
- 大森東四丁目自治会 (伊藤 音嗣 会長)
- 川端自治会 (平林 盛久 会長)
- 大森南自治会 (平林 茂 会長)
- 森ヶ崎自治会 (野口 多加志 会長)

**発行：地域力推進大森東地区委員会 編集：地域情報紙「いつつのわ」編集委員会**

【編集委員長】須山 芳明 (大森東四丁目自治会) 【副編集委員長】野口 弘子 (大森南自治会) / 安藤 澄枝 (森ヶ崎自治会)  
 【編集委員】田中 文雄 (大森東自治会) / 野村 勝恵 (大森東自治会) / 伊藤 音嗣 (大森東四丁目自治会) / 鈴木 笑美 (川端自治会) / 福本 享子 (川端自治会) / 魚住 みさ子 (大森南自治会) / 佐藤 恵美子 (森ヶ崎自治会) 【事務局】宮崎 さくら (大森東特別出張所)

## 地域活動 ほのほのサロン なとりさんち

平成二十六年八月に「フレイル予防、閉じこもり予防」を活動目標に挙げ、発足しました。旧なとり洋品店さんより地域の皆さんに活動場所の他に電気、ガス、水道代等々無償にて提供して頂いております。ボランティア、利用者共々本当に感謝しております。

活動内容は、エコクラフト、地域包括支援センターのお話、小筆に親しむ、布ぞうり、楽しい折り紙、健康体操と音読、ゲーム等です。

活動日は、毎週火曜・水曜日の十三時三十分から十五時までです。それぞれの会の講師は地域のボランティアの先生方です。先生方には多大なご協力を頂き、今年八月で九年目を迎えます。

コロナ禍で、参加者の多くが高齢者であるため数年間活動を休止しておりましたが、再開を望む多くの声を受け、令和四年四月から人数制限、時間短縮をして、検温、マスク着用、手の消毒、換気を行い再開しました。講座の気もさ



ることながら、講師の先生方の身近な話題や人生経験、そして参加者の貴重な体験談に耳を傾け、「あるある、そうそう」と共有し笑い声も多々おこります。

参加者に笑顔で楽しく過ごして頂き笑顔で帰って頂くという事を意識してお手伝いさせて頂いておられます。お友達がご友達を誘い、参加者が増えております。一歩外に出てコミュニケーションを楽しみませんか。人数制限もありますが、一度会場を覗いてみてください。いつでも歓迎です。  
(大森南自治会 田中 和恵)

## 民生委員児童委員の一斉改選にあたって



大森東地区民生委員児童委員協議会  
会長 比戸 二郎

民生委員制度は、一九一七年に始まった岡山県の「済世顧問制度」に起源を持ち、一九二八年に全国に普及し、一九四六年に「民生委員」と改称されました。

一人暮らし世帯の安否確認や、子育ての悩みや認知症の親族の相談などを受け、行政やその他の専門機関へつなぐなど、業務内容は多岐にわたる民生委員です。基本的には無給で、交通費や電話代などは支給されませんが、ほぼボランティアで地域の奉仕者として活動しています。

民生委員は自治会や市区町村の長から推薦された人が、推薦委員会などの審査を通じて任命されます。地域に住民票があり、信頼の厚さなど様々な面で評価されて決められます。

現在、全国の市区町村に約二十万人の民生委員が厚生労働大臣の委嘱(任期三年、再任あり)で活動しています。私たちは特別職の地方公務員として、地域の人の身近な相談役となり、専門機関へのつなぎ役として、家庭訪問や支

## 卒業おめでとうございます!

大森第一中学校 七十一名  
大森東中学校 百十九名  
大森第四小学校 九十二名  
中富小学校 三十一名

これから新たな歩を踏み出すみなさんの活躍を楽しみにしています。



## 受賞おめでとうございます

【二〇二二年度】  
全国民生委員児童委員連合会会長表彰  
民生委員・児童委員功労者表彰  
(民生委員児童委員歴二十年以上)  
板橋 晴美 (大森南自治会)

【東京都民生委員・児童委員大会における表彰】  
東京都知事規則表彰 (在職二十年以上)  
板橋 晴美 (大森南自治会)  
網島 明子 (大森東自治会)

◆東京都知事特別功労者賞 (在職十七年以上)  
比戸 二郎 (大森南自治会)

【大田区政功労者表彰】  
松本 弘子 (大森東自治会)

## 【市民消火隊 十年】

伊藤 敏男 (大森東四丁目自治会)  
伊藤 勉 (大森東四丁目自治会)  
須山 芳明 (大森東四丁目自治会)  
鳴島 繁藏 (大森東四丁目自治会)  
盛満 和則 (大森東四丁目自治会)  
伊藤 音嗣 (大森東四丁目自治会)

## 【市民消火隊 二十年】

平林 金好 (川端自治会)  
茨田 一枝 (大森南自治会)

(敬称略)

## 海苔つけ体験、 コロナ禍で 数年ぶりに再開!

一月下旬から二月上旬、大森第四小学校と中富小学校の生徒さんが、海苔つけを体験しました。かつてこ



## 「大森南図書館」 いっしょに地域を 掘り起こしませんか

大森南図書館では、地域の歴史を次の世代に語りつなげて残していくことを目的に協力いただける方を募集します。本には載っていないような事柄やその頃の時代背景など、ご自身が体験されてきたことをぜひ教えてください。貴重な地域資料として、地域の皆さまに活用していただきたいと考えています。

こんな方を募集しています

・大森東地区の歴史について書いてくださる方  
・校正等に協力して下さる方

問い合わせ先  
大森南図書館 TEL 03-3744-8411

## 地域の行事

★大田区子どもガーデンパーティー  
平和島会場

四月二十日(日) 午前十時〜午後三時  
会場：平和島公園

★貴船神社例大祭  
五月二十日(土)・二十一日(日)

★三輪船神社(弁天神社)例祭  
五月二十七日(土)・二十八日(日)

★浦守稲荷神社例大祭  
六月三日(土)・四日(日)

## 編集後記

日中の暖かに春の兆しを感じるこのごろです。今回は地元の方で、大田区工場に認定されました「ハネダ株式会社」さんのご紹介をさせていただきました。地元で、このような素晴らしい工場がある事は誇らしく思います。ウォークラリーには、たくさんの方が参加されました。今年は少しでも多くの催し事が開催されるといいですね。



の地で海苔漁師として活躍されていた地域の方や大森海苔のふるさと館スタッフの説明に、真剣に耳を傾けていました。年々、経験者が減っていく中、この伝統ある大森の海苔づくりの歴史を次世代に語り継いでいただきたい、残したい、残したい、残したいと切に願うばかりです。

## いっつのわ通信

### 我が家のダブル卒業・受験

大森東自治会 匿名

まだまだ幼いと思っていた子供も、気づけば中学三年生と高校三年生に。三歳違いの宿命として、すべての節目が重なります。入学式・卒業式そしてダブル受験。入学式と卒業式に関しては幸い、日にちが重なる事はなくバタバタと感動的な行事が続きましたが大変だと感じたことはありませんでした。

しかし、受験となるとそう呑気ではいられません。どんな学校があるのか、特色は。夏休みに



# ハネダ株式会社

## 事業内容

レンジフードやコインランドリーで使用されている、筒状についた羽根を回転させて空気を送り出す送風機「シロッコファン」、「ターボファン」を製造。微細なチリ・ホコリをも取り除く工業用クリーンルームにも、ハネダのファンが使用されています。コロナ禍の医療現場においては需要増大で、月に4,000台の製造を求められたとか!

ハネダ株式会社は、前身の会社で昭和30年代当初は大崎でラジオの基盤を製造していました。「アメリカから輸入したファンを日本で作れないか」という依頼に、見よう見まねで作ってしまったというから驚きです。当時は珍しかった国内産シロッコファンを展示会に出展したところ

## 良い製品を作るための取り組み

ハネダのファンは、経験豊富な職人たちが一つ一つ丁寧に手作業で加工しています。「現場にもよりますが3~4年で自分の仕事になってくる」と宮川社長。理系文系、男女問わず新卒採用し、働きやすい環境を整えています。

また、若い世代を育てる取り組みにも力を入れています。令和3年3月、大森第四小学校6年生の授業「下町工場の魅力を広めよう」に社長が登壇。子どもたちは工場見学等を経て「会社パンフレット」を作成しました。そのパンフレットは社長が今も大切に保管されており、編集委員に見せてくれました。社長が子どもたちに、「若い人たちに入社してもらうためにはどうしたらいいかな」と相談したところ、すごく考えて後日まとめてくれたという答えがこちら。「あったかい会社だった。それをアピールしたら若い人も入ってくるのではないかな。」

## ものづくりへの想い、面白さについて

工場内で職人達本人が別段何気なく行っている作業が、実は他にできないすごい技術だったりするんです。どの工場にも他にはできないここだけの技術(ないと困る技術)がある、とお話してくださいました。

## ~令和元年度 優工場認定~

大手メーカーに採用され、「ハネダ専業」でいくことを決意。昭和58年には、会社を大森南に移しました。



地域に知っていただきたいので工場見学など大歓迎です。

代表取締役 宮川 茂樹  
従業員数：16人 大田区大森南4-10-19  
創業年：2009年 TEL 03-6715-1022  
FAX 03-3743-0457

は説明会や個別面談やオープンキャンパスがあり、それぞれ予約が必須です。ここ数年は人数制限があつたり簡単には予約が取れないことも。そして覚悟が必要になるのが塾代です。大学の受験方法にはいくつ種類があり、うちは小論文の書き方や面接の練習等を学校の先生方に手厚く見て頂いたのでも助かりました。高校受験では塾での長い時間の受講が欠かせず、特に夏季講習では目が飛び出すような塾代でした。ただ、子供は弱音も吐かず日々勉強に励んでいました。親として気ばかり焦りあつたふたしていましたが、頑張っていたのは子供たち本人。結局のところ親がしてあげられることなんて、いつもの様に見守り、食事や生活の環境を整える、そんな当たり前のことだけでした。

このダブル受験では子供の成長ぶりをはっきり感じる事ができました。あれもこれもしなければ、と勝手に気を揉んでいました。思った以上に子供達は自分で考え、学校調べ等もしていました。



志望校を決める際にも明確な意思があり、いつの間にかたくましくなっていたことが嬉しくもあり少し寂しくもあります。まだ受験の真っ最中ですが、結果がどうであれ子供達にはきつくと楽しく充実した学校生活が待っていることでしょう。

## 大森の海苔が終わって六十年 大森東四丁目自治会 須山 芳明

昭和三十八年(一九六三年)三月で大森の海苔事業は終了しました。今年で六十年経ちます。大森漁業協同組合の最後の総会が中富小学校で開催され、海苔をやられた人たちは、それぞれ生活の糧を採すことになりました。

海苔を止めなければならなかったのは、ひとえに海苔を栽培する海水が悪化したためです。終戦後高度成長が始まるとともに水質は次第に悪化しました。工場の劣悪な排水や汚泥の流出、埋め立ての土砂の流出、重油の流出などです。多摩川の水質の悪化もあり、東横線多摩川駅付近の東京都の取水堰で、石けんの泡が出ている写真を見た時には、この水を飲んでいたらとぞつとしました。

海苔の栽培には種付けという作業があり、千葉に海苔網を持参し、九月頃から十一月初旬まで網を張り、その後持ち帰り、大森の海に張り十二月頃には一番海苔が採れ

ました。最初の海苔はつやつやしており、終わりの頃の翌春三月にはボサボサという状況の海苔になりました。

この種付けで疑問があります。よく自治会の先輩から種付けは「久保田」という海岸に行くと聞きました。今の千葉の地図を探しても「久保田」という海岸はありません。先日千葉県庁に電話で聞きましたら、袖ヶ浦市のJR内房線「長浦駅」の近くにそういう名前があるとのことでした。地図を見ると「久保田笠上交差点」という地名があり、この場所の海岸は埋め立て地が続く場所です。その北は市原市の姉ヶ崎で、この名前も先輩から聞きました。この両地点は大森から見て東京湾の対岸に当たります。川崎からアクアラインが建設されたのが木更津市で、その北に隣接するのが袖ヶ浦市です。海路約二十五キロほどです。我が家には方向を指示する木箱入りコンパスやブリキ製の赤と緑の灯火器や組み立てストープがありました。気象情報も今とは違います。ポンポン船で行きますので大変だったと思います。是非当地に行ってみたいと思うこの頃です。



### 完歩された皆さん

酒井 春美	稲垣 美恵子	小泉 永子	辻村 猛	小野井 茂夫	蛭田 美伊代
酒井 政美	石川 禮子	鳴嶋 秀男	矢吹 淑子	平林 恵子	かとう かな
須山 惣一	石井 マサ子	鈴木 茂允	奥島 悦子	平林 茂	伊東 陽幸
スズキ マツヨ	高村 勝夫	長谷川 幸子	福本 享子	向田 利枝子	竹之内 健男
田中 和子	茨田 洋子	中田 博	亀岡 房子	高久 浩三郎	大場 胡桃
嶋田 紀恵	佐保 理未	石田 集	小林 央人	笹川 哲哉	大場 行子
野村 勝恵	中尾 初枝	比戸 二郎	村瀬 桂子	笹川 裕子	五十嵐 定夫
木村 安加里	小磯 千栄子	永田 晟子	安田 康子	田中 すみ系	永井 れい子
河合 謙	石渡 妙子	伊藤 アヤ子	横山 麻知子	岩本 睦子	田邊 みつ江
綱島 勲	須山 知子	伊藤 巖	木野 篤子	永瀬 豊	

※氏名の掲載に同意いただいた方のみ

今年も開催を予定しております。ぜひご参加ください!!

#### 参加した利用者の声

今まで歩いたことのないところを歩いて、海苔船をとめた川などを知った。

大変だった。疲れたけど楽しかった。ダイエットのためにまたやりたい。

### アンケート結果

参加したきっかけ(複数回答)

運動不足を解消したいと思ったから	164
大森東の地域を見て回りたいと考えたから	150
家族・友人から勧められたから	102
景品に興味があったから	79
その他	14

十か所のスポットにあるパネルからひらがな一文字を集めていただき、「糖尿病を予防するためにできること」のキーワードを穴埋めしていただきました。答えは「よくあるきしよくじはよくかみ やさいから」でした。

参加賞交換初日、完歩一番乗りは酒井さんご夫妻で、「始まる前からわくわくしていました。毎日二人で歩いていきます。」と写真のおくり、撮影にも快く応じてくださいました。二百五十九名の方が参加賞を受け取られ、「楽しかった」「いい運動になった」と達成感であふれていました。

野村編集委員はお孫さんと歩きました!

酒井さんご夫妻です。

人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト、大森東地区ウォークラリーを実施しました!! (10/30、11/30)